

## 令和3年度弁理士試験論文式筆記試験問題

[民法]

部品製造業者**A**は、電機メーカー**B**に対して部品を供給していた。**B**は、**A**の経営を支援するため、**A**の求めに応じて貸付けを行うことがあった。

2021年3月10日、**B**は、**A**に対し、弁済期を同年9月10日として100万円を貸し付けた（以下、この貸付けにかかる債権を「**甲債権**」という。）。

2021年6月1日、**A**は**B**に部品を販売し引き渡した。その際、**A**と**B**の間では、代金額を200万円、弁済期を同年9月1日とすることが合意された（以下、この売買にかかる代金債権を「**乙債権**」という。）。なお、**A****B**間では、**A**が**乙債権**を譲渡してはならない旨の特約がされていた（以下、これを「本件特約」という。）。

2021年7月1日、**A**は、**B**の同意を得ることなく、**乙債権**を**C**に対して譲渡した。この時点で**C**は、**A****B**間で本件特約がされていることを知らなかった。**A**は、7月1日の確定日付のある証書によって、**C**に**乙債権**を譲渡した旨の通知を**B**に宛てて発送し、この通知は同月4日に**B**に到達した。

2021年7月2日、**A**は、**B**の同意を得ることなく、**D**に対しても**乙債権**を譲渡した。この時点で**D**は、本件特約の存在を知っていた。**A**は、7月2日の確定日付のある証書によって、**D**に**乙債権**を譲渡した旨の通知を**B**に宛てて発送し、この通知は同月3日に**B**に到達した。

以上の事実を前提として、次の各設問に解答しなさい。

【100点】

- (1) **乙債権**を取得するのは、**C**と**D**のどちらか。理由を付して論じなさい。
  
- (2) 2021年9月10日、**B**は、**C**と**D**から**乙債権**の弁済を請求された。**B**は、これらの請求を拒むことができるか。**B**は、誰に幾ら弁済すれば**乙債権**について免責を受けられるか。甲債権の存在にも留意しつつ論ぜよ。なお、利息及び遅延損害金については考慮しなくてよい。